

平成28年3月期第2四半期 決算説明会

平成27年11月6日



未来は、ミルクの中にある。

雪印メグミルク

【1】第2四半期(累計)の連結業績



1. 経営成績

(億円、%)

	平成27年 3月期	平成28年 3月期	増減額	前期比
売上高	2,768	2,906	+137	105.0
営業利益	51	75	+24	148.3
経常利益	55	72	+16	130.2
純利益※	22	117	+94	511.8

※親会社株主に帰属する四半期純利益

2. セグメント別

(億円、%)

	乳製品		飲料・デザート類		飼料・種苗		その他	
	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比
売上高	1,084	107.3	1,391	104.1	244	98.4	185	108.2
営業利益	44	123.6	11	+	10	92.7	8	189.3

【2】利益増減要因の内訳①〔連結営業利益〕

平成28年3月期 第2四半期(累計)

前期比較

前期	当期	増減額
51	75	+24 (億円)

増益要因 合計	+78	減益要因 合計	△54
販売単価差	+45	乳価差	△16
コストダウン	+12	資材単価差等	△8
販売物量増加による利益増	+12	ロジスティクス費用の増加	△7
製品構成差	+9	宣伝促進費の増加	△22
		その他	△1

3

【2】利益増減要因の内訳②〔連結経常利益以下〕

平成28年3月期 第2四半期(累計)

項目	前期	当期	増減額	主な増減要因
営業利益	51	75	+24	
営業外損益	+4	△3	△7	・為替差益△7
経常利益	55	72	+16	
特別損益	△12	+99	+112	・関係会社事業損失△9 ・工場再編損失+7 ・固定資産売却益+115
税引前利益	43	172	+128	
純利益※	22	117	+94	

※親会社株主に帰属する四半期純利益

4

【3】平成28年3月期(27年度)連結業績予想①



1. 経営成績

(億円、%)

項目	平成27年 3月期	平成28年 3月期予想 (10/22公表)	増減額	前期比
売上高	5,498	5,650	+151	102.8
営業利益	93	120	+26	127.9
経常利益	104	120	+15	114.9
純利益※	39	140	+100	356.1

※親会社株主に帰属する当期純利益

2. セグメント別

(億円、%)

項目	乳製品		飲料・デザート類		飼料・種苗		その他	
	業績予想	前期比	業績予想	前期比	業績予想	前期比	業績予想	前期比
売上高	2,210	103.7	2,620	102.5	470	99.0	350	103.6
営業利益	99	106.4	△0	+	9	81.9	12	197.8

5

【3】平成28年3月期(27年度)連結業績予想②



1. 上期業績予想

(億円、%)

項目	修正前	修正後	増減額	増減比
売上高	2,850	2,900	+50	101.8
営業利益	50	75	+25	150.0
経常利益	45	70	+25	155.6
純利益※	25	115	+90	460.0

※親会社株主に帰属する
四半期純利益

2. 通期業績予想

(億円、%)

項目	修正前	修正後	増減額	増減比
売上高	5,600	5,650	+50	100.9
営業利益	95	120	+25	126.3
経常利益	95	120	+25	126.3
純利益※	60	140	+80	233.3

3. 配当

普通配当	30円
連結配当性向	14.5%

※親会社株主に帰属する
当期純利益

6

平成28年度目標数値

連結営業利益
130～150億円

連結EBITDA
310～330億円

戦略の柱

(1) 事業構造改革

(2) 戦略投資設備の最大活用

(3) 成長分野の事業拡大

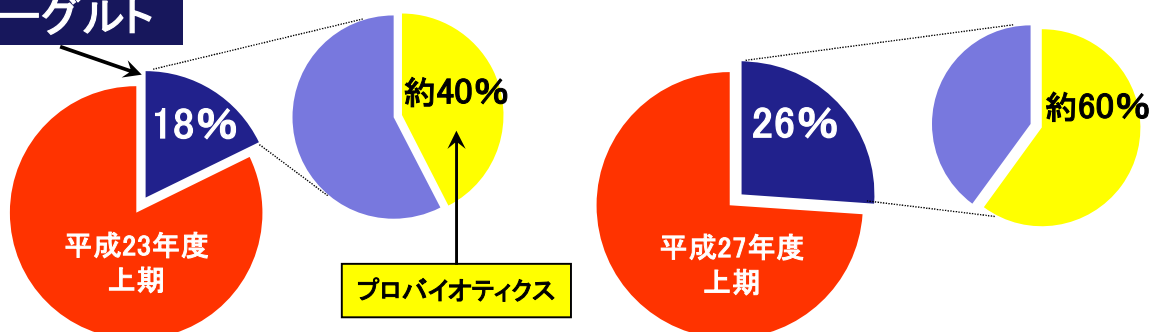
(4) 機能強化と体制整備

7

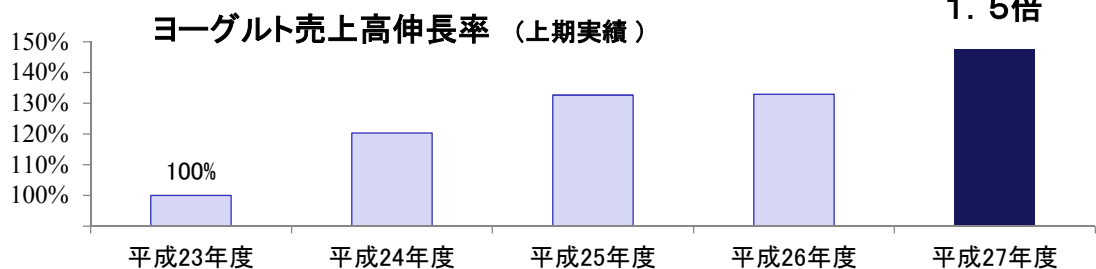
【5】事業構造改革

高付加価値商品の販売拡大による「プロダクトミックスの改善」

ヨーグルト



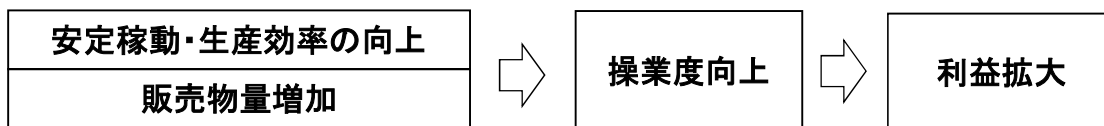
家庭用市乳部門における
ヨーグルトの構成比



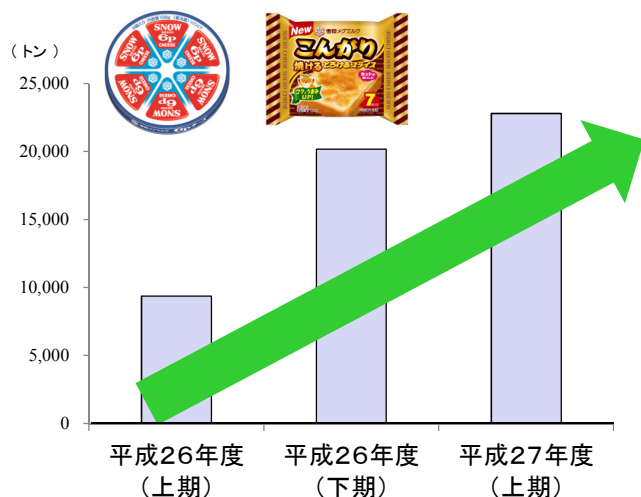
8

【6】戦略投資設備の最大活用

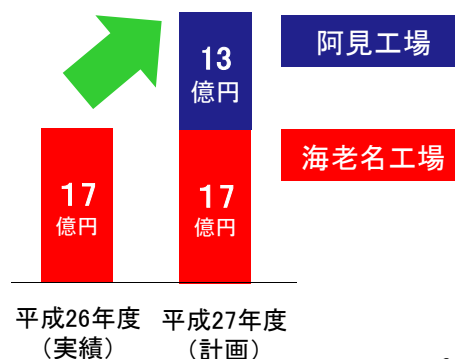
「安定稼働・生産効率の向上」「販売物量増加」による利益拡大



阿見工場の生産量推移



工場集約に伴う
合理化メリット額推移



【7】成長分野の事業拡大①

継続成長分野の事業拡大

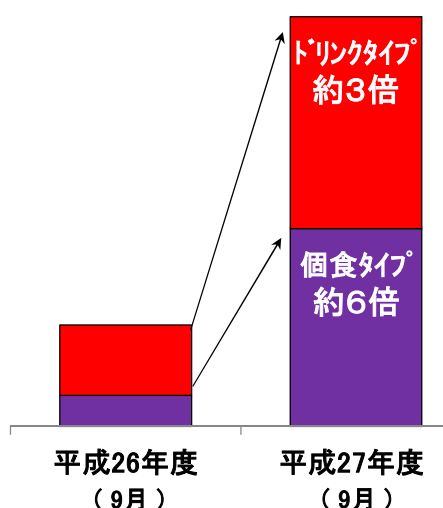
ヨーグルト

機能性表示食品制度の活用

“ガセリ菌SP株が内臓脂肪を減らす”

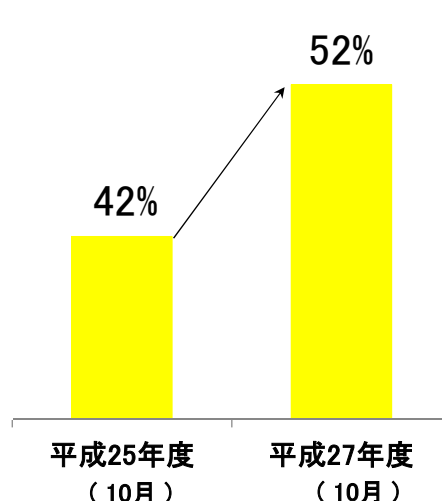
ガセリ菌SP株ヨーグルト

売上高 (前年同月比)



ガセリ菌SP株の認知率

(当社調べ)



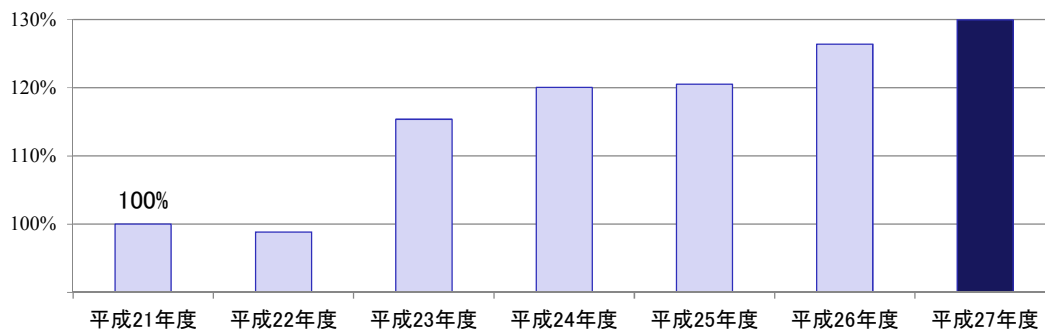
【7】成長分野の事業拡大②

継続成長分野の事業拡大

ナチュラルチーズ

ナチュラルチーズ売上伸長率（上期実績）

平成21年度比
1.3倍



- さけるチーズの販売強化
- 新商品およびテレビコマーシャルの投入



11

【7】成長分野の事業拡大③

新規分野の事業拡大

海外事業

粉ミルク事業



- 新商品投入などによる販売強化
- 商品多様化や新規市場開拓等の取組推進

プロセスチーズ事業



- インドネシア市場の展開強化
- 商品ラインナップの拡充

機能性食品事業

- 「MBP®」のアカデミックマーケティングの推進
- 通販チャネルの強化
- 機能性素材の活用

（MBP配合商品）



12

主要乳製品の関税措置の主な内容

主要乳製品	主な内容
バター 脱脂粉乳	・既存WTOの枠組みは維持し、追加輸入の範囲内で TPP枠を新設
ホエイ	・セーフガードを設け、完全撤廃
チーズ	・ゴータチーズ、チェダーチーズ、クリームチーズ等の 関税の段階的な撤廃 ・モッツアレラ等、カマンベールは、現状維持 ・プロセスチーズは、国別関割を設けるものの現状維持
全粉乳 バターミルクパウダー	・TPP枠の新設
煉乳	・TPP枠の新設

13

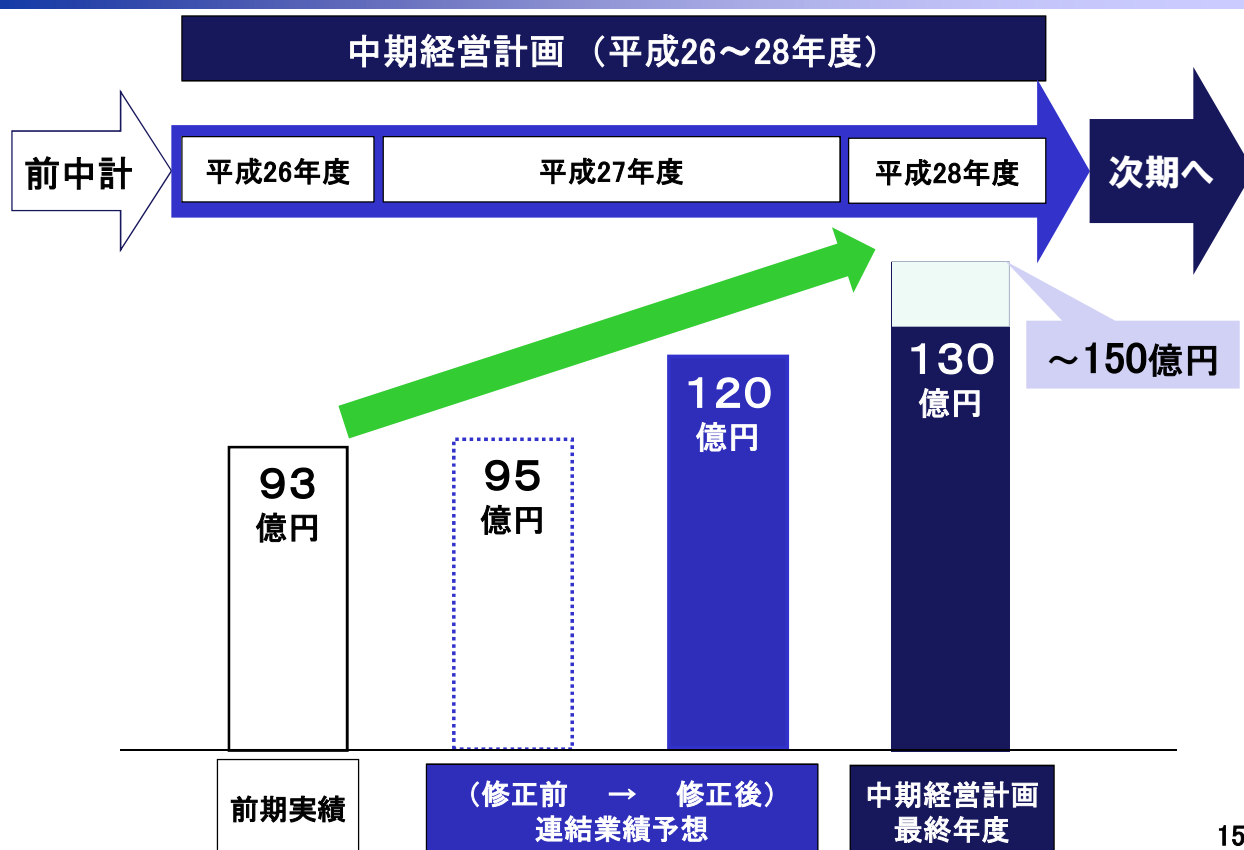
環境変化への対応のための当社の取組み

1. 乳の付加価値拡大による国内酪農基盤の安定化
2. プロダクトミックスの最適化による乳資源の有効活用
3. 乳資源の調達機能と体制の整備

今後も現行の取組みを継続

14

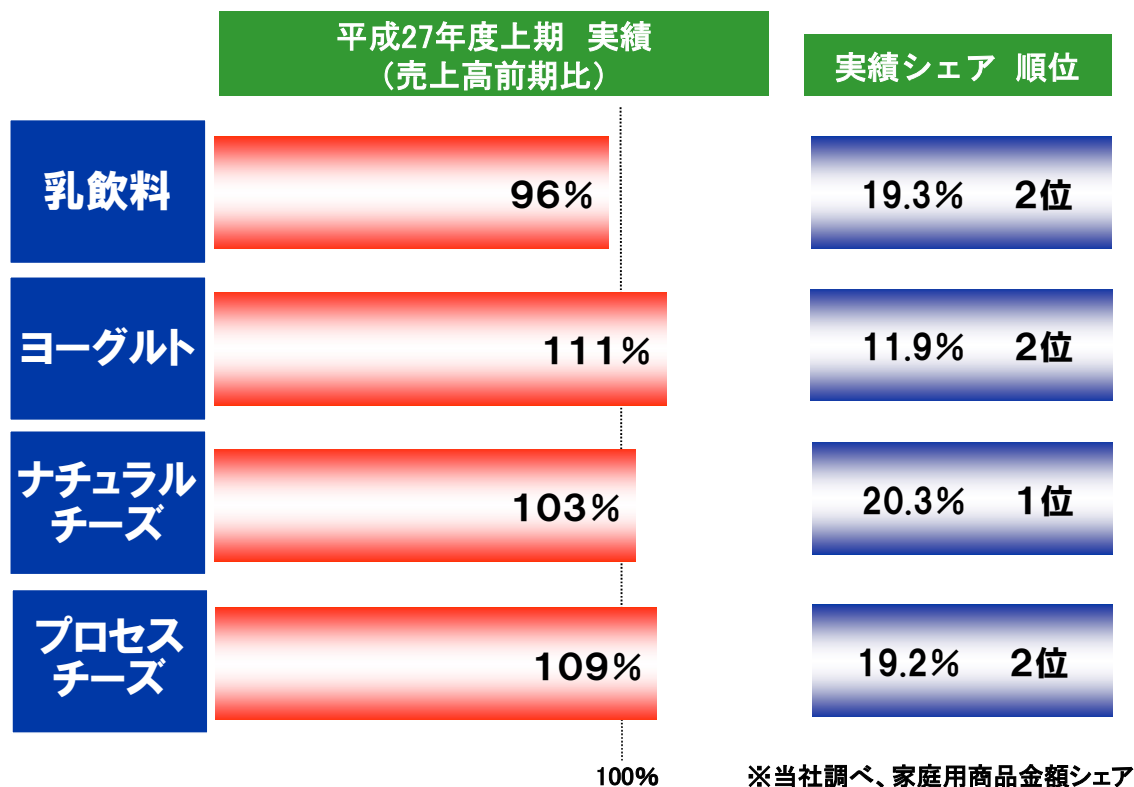
【9】連結営業利益の推移



未来は、ミルクの中にある。



【参考①】 カテゴリーNo.1戦略の進捗状況



【参考②】 連結業績予想(10/22公表)の利益増減要因



連結営業利益の増減要因

平成27年 3月期	平成28年 3月期予想 (10/22公表)	増減額
93	120	+26 (億円)

増益要因 合計		+146
販売単価差	+92	+77
コストダウン		+15
販売物量増加による利益増		+30
製品構成差		+15
その他		+9

減益要因 合計		△120
乳価差	△65	△36
資材単価差等		△15
ロジスティクス費用の増加		△14
固定費の増加		△25
宣伝促進費の増加		△25
減価償却費の増加		△5